

なおみ

理念

安全・信頼・連携・地域密着
私たちは、地域に密着した病院として、他の医療機関や関係の方々との密接な連携のもと、安全で心の通った医療・保健・福祉サービスを提供し、患者さんや地域の皆さんから信頼され選ばれる病院を目指します。

「信頼され、選ばれる病院を目指して」

さらに地域に密着した病院を目指します

医療法人 正観会 御野場病院
院長 皆河 崇志

当院が御野場の地に開設されてから、この6月で38年目を迎えます。この間、地域住民の皆様と近隣の医療機関そして介護施設のご支援により、当院は順調に発展することができました。しかし、昨今の国の財源不足による医療費削減、そして高齢化による人口減少により、秋田市内の医療機関の経営は苦しくなりつつあります。幸い当院は経営的に安定した状態が続いていますが、今後さらに厳しくなると予想される医療費・介護費の削減を考えますと、今後の医療需要に対応し、適切に変化していくことの必要性を感じざるを得ません。

当院は、入院病棟として回復期リハビリ病棟と慢性期病棟（療養病棟と特殊疾患病棟）で構成されていましたが、本年度から慢性期病棟の一部を地域包括ケア病棟に変換することにしました。地域包括ケア病棟とは、急性期と回復期両者の機能を持った新しい概念の病棟であり、当院としては、これからさらに増加する秋田市南部の高齢の患者さん（肺炎、腰椎圧迫骨折等の外傷、様々な疾患の終末期）を積極的に受け入れ、必要であればリハビリを提供し、病状が改善した患者さんは早期に自宅（あるいは施設）に戻っていただくことを目標に設置するものです。退院後は、訪問診療・訪問看護・訪問



リハビリ等で積極的にサポートしたいと考えています。

当院では、ここ数年で急速に拡大した在宅医療の需要に対応するため、訪問診療、訪問看護、そして訪問リハビリをフル稼働し、スタッフの増員を図っているところです。訪問診療を繰り返す中で、病状が悪化した時はどうすれば良いのか、御野場病院に入院できるのか、最後は御野場病院で看取ってくれるのかという声を多数聞き、在宅の患者さんへの24時間対応とその受け皿としての新しいタイプの病棟の必要性を痛感し、地域包括病棟の新設に至った次第です。

当院の理念は、地域に密着した病院として他の医療機関と密接な連携のもと、心の通った医療・介護・福祉サービスを提供し、患者さんや地域の皆さまから信頼する病院を目指す、となっております。秋田市南部圏域の診療所、病院、介護施設にとって利用しやすい病院としてさらに発展すべく努力致しますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。





南部圏域の地域包括を考える会

なんケアの会

南部圏域の地域包括ケアシステム構築に向けて、顔の見える関係づくりを目指すため、2月より事例検討会を開催しています。患者さん・利用者さんの実践的な対処方法や、事例の紹介・検討を、お茶を飲みながら気楽に話し合える会にしたいと考えています。

第1回目のなんケアの会は、当院会議室にて行いました。約30名の方々にご参加いただき、南部圏域の地域包括ケアシステム構築に向けての様々な意見交換をすることができました。

第2回目は、南部市民サービスセンターなんぴあを会場とし、事例検討会を開催しました。医療機関・地域包括支援センター・介護サービス事業所・調剤薬局の方々にお集まりいただき、普段の業務ではなかなか相談のできないこと、具体的な事例についての相談など、様々な意見交換ができたのではないかと思います。

今後2か月に1回のペースでこのなんケアの会を開催していく予定ですので、ご興味のある方は是非ご相談いただければと思います。

南部圏域の地域包括ケアを考える会

なんケアの会 事務局 御野場病院

TEL. 018-839-6141 (担当：高橋・越前屋・佐野)



6年目の自分

あれから5年。何気ない日常の中に、ふと思い出す瞬間があります。2011年3月11日の震災から5年が経ちました。私はその震災の最中、御野場病院に転職してきました。地震直後はまだ、東京で暮らしていて、交通機関もマヒした状態で一体どうやって秋田に向かうかと、そもそもこんな大きな震災で、日本は大丈夫なのかと、様々な思いを巡らせていました。当院も地震の影響でライフラインがストップし、対応に追われていたと聞いています。私は新潟経由で秋田へと向かい、道中でスリップによる追突事故を起こすというアクシデントを乗り越え、事故車で秋田入りを果たしました。そんな中入社しましたので、5年前のあの日は私にとって震災という意味合いの他に記憶に残る日でもあります。あれから5年が経ち、あの日を思い出すとともに、今の自分に任せてもらっている仕事についてふと考える時があります。どうして今ここに座っているのか。ここまでどんな思いでやってきたのかと。

院内では、総務関係・情報管理関係の仕事をしています。私はもともと電子カルテのメーカーに努めていました。ですから当院でもパソコンのことになる、よく相談を受けます。よく皆さんに言われるのが、どうしてそんなに知っているの？とか、やっぱり専門家だね。とか言われますが、実は私は専門家でもなければ、そのような学校を出ているわけでもありません。大学時代はお米の酵素の研究をしていたのですからパソコンに詳しい訳がありません。しかし、大学卒業後に就職した職種はプログラマー。嫌でも毎日パソコンの前に座り、できなくても基礎から知識を叩きこまれました。そのうち興味を持ったものを自分で調べるようになり、インターネットで検索すると、大抵のことはそこに書いてあるということがわかりました。今ではわか

らないことがあっても、Google先生が助けてくれると、信じています。わからない時はすぐに先生に助けてもらいます（Google先生は助けてくれない時もあります）。Google先生とは、インターネット検索サイトのことで、検索ワードを入れると、道案内や荷物追跡、翻訳、計算までしてくれます。わからないことを調べて、自分のものにしていく楽しみがそこにはありました。

人間興味をもって一生懸命打ち込めば大体の事はそれなりにできるのだなとよく思います。年齢や性別は関係ありません。大切なことは、興味を持つこと。大昔の言葉に、こんなものがあつたので、紹介します。「一生懸命だと知恵が出る 中途半端だと愚痴が出る いい加減だと言いつけが出る」私もよく愚痴や言い訳をこぼしています。よく考えてみれば、まだまだ中途半端なのかもしれません。何事も一生懸命取り組んでいけば、うまく行かなくても誰かが手を差し伸べてくれたり、誰かが見ていてくれたりするものです。うまく行かず、弱音を吐きそうになった時は、まだまだ一生懸命さが足りないのだと、もう一度自分を奮い立たせ、この言葉を思い出そうと思います。

とはいっても、一生懸命を続けるのは疲れてしまいますので、たまには息抜きをして。そんなことを考えながら、リレーエッセイを書いているわけであります。この記事を書くことで、様々なことを思い返す良い機会となりました。新年度を迎え、また新たな気持ちで前に進んでいこうと思います。

事務部 後 藤 真 司





辞令交付式

新年度を迎え、辞令交付式が行われました。今年度は、各部署計9名が新規採用され、昇任辞令交付も同時に行われました。新副院長として、小林佳美先生が就任されました。新規採用職員とともに、安全・信頼・連携・地域密着の理念の下、全職員が協力して、患者さんと地域の皆さんに安全で信頼される医療とケアの提供に努めます。本年度もよろしくお願い致します。



平成28年3月31日をもって、当院副院長の多田先生がご退職されました。多田副院長は昭和59年から御野場病院に勤務され、長きに渡り御野場病院の発展にご尽力いただきました。長い間本当にありがとうございました。



春の行事食の『ランチデー』と『茶話会』についてご紹介します。

3月のランチデーは春の訪れを感じていただきたく「菜の花ちらし」をメインにしました。菜の花で息吹く緑、炒り卵で穏やかに照らす春の陽光、ちらした桜でんぶで桜をイメージしてお出ししました。酢飯や鮮やかな見た目が患者さんにとっても好評でした。



4月の茶話会は「さくらクッキー」と「苺ムース」を作りました。

桜の塩漬けをのせて焼いたクッキーは、塩味と甘味が絶妙なバランスで患者さんから好評でした。

春を存分に感じてもらうおやつにより、院内では一足早く桜の開花が訪れたようでした。

